

# 『進む人工知能と新たな税金』

足立区立蒲原中学校 三年二組

滝本 優羽

最近「AI」という言葉をよく耳にする。確かに、お店やファミレスでロボットが仕事をしている場面を幾度か見たことがある。私はその様子を見て、ロボットに関心を持った。

ニュースでとある話題を見つけた。「ロボット税」。世界的に議論されている新しい税制である。私は初め、ロボットを作る費用を国民が負担するという税金だと思っていたが、この税金はロボットが働いた時に生じる所得税を、ロボットを所有した企業が納めるものであった。今、急速に進化している人工知能。チャットGPTも開発され、多くの人々から注目を集めている。しかし、ロボット税が導入された場合、企業の負担が増大するため、これからの技術の発展は著しいとは言い切れないだろう。一方で、AIによって失われてしまう可能性のある仕事をしている人にとっては、一つの救いになるのかもしれない。もしAIやロボットの自動化がこの先も止まることなく進んだとしたら、人間の労働者が代替される可能性はその分高まる。よってロボット税の導入がAIやロボットの自動化を抑制できるのであれば、多くの人々がそれを望むだろう。ビル・ゲイツさんが主張した「ロボットが人間の仕事を奪うなら、ロボットに課税するべきだ」という意見から生まれたロボット税が、ここまで深く考えられていることから、同意の人が多いことが証明できる。

私はその意見とは逆で、ロボット税を導入する必要はないと思う。日本は少子高齢化が進んでいる。となると将来の労働者が足りなくなることもありえる。また、食料自給率低下の原因となっている農水産物の生産者の人手不足もその影響を受けている。それならばロボットの必要性は高まってくるに違いない。ロボットを活用すれば、労働者の人手不足は解消され、より効率的に作業を行うことができる。全ての仕事をロボットにやらせるのではなく、そういった使い方をすればロボット税を導入しなくても良くなるのではないか。

AIやロボットの進化のスピードは思っているよりも早いもので、人間がAIを操作する今の当たり前の世界ではなく、AIが人間を操作する時代が来てしまうかもしれない。そのような時代にならないためにも、ロボット税について議論を重ねて、ロボット税を導入するにあたってのたくさんの問題を改善していくことが大切だと思う。そして、ロボットに全てを任せていくのではなく、その素晴らしい技術と人間の力を合わせてロボットと人間が共存できる世界になってほしい。